

## 日本技術士会北陸本部講演会（石川） 「日本海国土軸を活かした地方創生」

### 1. はじめに

日本技術士会北陸本部講演会（石川）「日本海国土軸を活かした地方創生」が、令和6年11月18日（月）に会場（石川県政記念いのき迎賓館）とオンラインのハイブリッド形式で開催された。

本講演会は、平成27年の第42回技術士全国大会（北陸・富山）の分科会を継続し、日本海国土軸を活かした地方創生など、北陸各地の取り組みを共有し、社会に何らかを提案することを目的としている。これまで年1回、北陸4県を巡回して開催しており、今回は会場54名、オンライン42名、合計96名の参加があり、盛況であった。

### 2. 講演会の概要

講演会は、平野本部長の開会挨拶に始まり、表-1のように行われた。基調講演のほか、パネルディスカッションでは、北陸4県の技術士より各県での取り組みが紹介され、意見交換が行われた。

表-1 講演会の概要

#### 【基調講演】

「日本海国土軸」が拓く北陸の未来

五十川 泰史 氏（国土交通省金沢河川国道事務所長）

#### 【パネルディスカッション】

##### ○パネリスト

大島 常寛 氏（新潟県上越市都市整備部長）

杉山 茂之 氏（三和ボーリング㈱地盤調査部取締役）

杉本 英大 氏（金沢市都市整備局市街地再生課長）

安野 伸春 氏（㈱サンワコン地域まちづくり部長）

##### ○コメンテーター

五十川 泰史 氏

##### ○コーディネーター

埴 正浩 会員（㈱日本海コンサルタント 専務取締役）

### 3. 基調講演

五十川 泰史氏（国土交通省金沢河川国道事務所長）



国土計画における「日本海国土軸」の記載として、これまでどのように表現されているかや、「日本海国土軸」の変遷として、国引き神話や七道駅路などを紹介された。また、北陸の現状・

課題や令和6年能登半島地震についても説明され

た。さらに、「日本海国土軸」の役割として、国土利用の高度化、リダンダンシー・バックアップ、ポテンシャルを引き出すと整理された。最後に、「日本海国土軸」による実現する未来像として、安心して暮らせる豊かな地域、豊かな資源を活かした産業・交流・生活拠点、大都市圏（関東、中部、関西）との交流・連携について話された。

### 4. パネルディスカッション

大島氏（新潟県）から「上越市の取組について～まちなか居住推進事業～」として、立地適正化計画において誘導重点区域を独自に設定し、その実現化方策としての支援制度等について紹介があった。

杉山氏（富山県）から「日本海拡大と地盤」として、日本海国土軸は日本海拡大で形成された地盤である。地盤はローカルであり、地域性が強いゆえに、各地域に精通した技術者が必要と紹介があった。

杉本氏（石川県）から「歴史都市金沢のまちづくり」として、新幹線開業までの準備、金沢港の機能向上、金沢の個性を磨き高める取組み、まちづくりの規範「保存と開発の調和」などの紹介があった。

安野氏（福井県）から「福井市中心市街地の再整備と日本海国土軸」として、中央大通りの修景設計、北陸新幹線開業がもたらした効果、それをいかに継続していけるか、これが一番大事と紹介された。

コメンテーターの五十川氏は、日本海国土軸は地域のポテンシャルを引き出す。多様な北陸の魅力をPRし、能登半島地震ときっかけにインフラ整備の必要性を訴えてほしいとコメントされた。

最後に、コーディネーターの埴会員が、日本海国土軸はその役割を発揮し、安心して暮らせる豊かな地域を創り、人の流れを地方に拡大させること。地方創生を進めるには、ビジョンを描き、地域個性を磨くマネジメントが重要であること。そして、地域をよく知る技術者を育て、技術士（会）は、未来へのバトンリレーに貢献すべきとまとめた。



会場の様子

（文責 石川 埴 正浩）